



97.9.18

菅波 茂

内乱の続くアフガニスタンから、レルニック健太郎氏が報告のため一時帰国した。彼は新進の気性に富む25歳のAMDAのフィードコーディネーターである。AMDAは半年前から、イランとの国境に近いヘラートに事務所を設置して活動している。

現在、世界保健機関と組んで小規模融資事業（マイクロクレジット）を実施している。これは事業意欲のある人たちに資金を貸して生活再建を支援する事業である。貸付金の回収率が80%を割ると失敗となる難しい事業である。

特に、内戦とインフレは大敵である。貸付対象事業の選定、必要な知識の教育、貸付事業の育成、不良回収率の回避などソフトの大

集積事業である。

現在、アフガニスタン国内でマイクロクレジット実施に成功しているのは、AMDAだけである。成功した理由は、AMDAバンク

貧困対策の切り札

ラデッシュ支部からマイクロクレジットの専門家を派遣したからである。

マイクロクレジットはバンクラデッシュのヤヌース教授によって開始されクラインギングバンク（ベン

ガル語で村の銀行の意味）の名前で世界的に有名である。発展途上の貧困対策の切り札ともいわ

れ、貧困対策の世界標準になろうとしている。ヤヌース教授の経済分野でのノーベル賞の受賞が遅すぎるくらいである。

アフガニスタンは4派の政治勢

力が覇を競っている。タリバン派、ラバニ元大統領派、マリク將軍派、そしてイスラム統一党派である。AMDAの基本は積極的中立支援である。すなわち、これらの4派すべての支援体制を取ることである。

多くの難民と被災民を抱えている国連難民高等弁務官から、マイクロクレジットの共同実施依頼がAMDAに来ている。日本政府もアフガニスタンの和平交渉の仲介の労を取ることには意欲的である。

AMDAの願いは世界共通である「家族の今日の生活、明日の希望」を実現することである。国連—日本政府—AMDAの3者連携がアフガニスタンの内戦に疲れた人たちの生活再建のお役に立てれば望外の喜びである。

（アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者）